

お 泉 水

1995年3月1日

■平成6年度全国図書館大会

平成6年10月26日～28日に鳥取市で「手をつなぐ日本の図書館—ネットワークの広がりをめざして—」のテーマのもとに第80回全国図書館大会が開催された。参加者は1,811名で、本県からは8名が参加した。

第1日目は、開会式に続いて全体会が開かれ、大会副会長による基調報告、鳥取赤十字病院の徳永進医師による記念講演「普通の死」が行われた。第2日目は13の分科会に分かれ、各テーマにそって事例報告、研究討議がなされた。第3日目の全体会では各分科会の報告とそれに対する質疑応答が行なわれた。尚、全体会と希望者のあった分科会では、手話通訳及び要約筆記があったが、要約筆記は健聴者にとっても便利であった。

関連行事として「児童図書2,200冊の展示」「図書館ニューメディア展」「利用のための資料保存：紙資料の劣化とその対策」「図書館の自由に関する宣言—40周年記念展」「鳥取県立図書館所蔵貴重コレクション展」「地方出版物の展示」があった。いずれも興味深く、特に「紙資料の劣化とその対策」については第10分科会“資料保存”に参加しただけに、実際に現物を手にとって理解できた。

(金津町立図書館 田原 みゆき)

■平成6年度全国公共図書館研究集会

◇奉仕部門

10月21日・22日の2日間、金沢市において奉仕部門の研究集会が開催された。参加者は、本県からの14名を含む434名であった。

3館からの事例発表をもとに、利用者の多様な要求に応える、カウンターを中心としたサービスはどうあらねばならないかを討議したが、これからの図書館は、時代の変化とともに変えていくべきことと、不変であるべきことが何であるかを常に見つめながらサービスに努めていかねばならないことを痛感した。

また、「ネットワーク化の進展と将来の公共図書館の役割」をテーマにした、図書館情報大学教授原田勝氏の基調講演では、コンピュータ関連技術と情報基盤の整備による、公共図書館の新しい可能性が示されたが、技術の進歩には大変驚かされた。

(丸岡町立図書館 山田 尚子)

◇整理部門

9月1日・2日の両日、長崎市において「国際化に対応する資料の収集と整理について」を研究テーマに、平成6年度全国公共図書館整理部門研究集会が開催された。

参加者総数258名、本県からも4名が参加。

第1日—中野捷三国立国会図書館総務部副部長の基調講演「のびやかな心を—外国資料と公共図書館をめぐって」で幕を開けた研究集会は、都立中央、福岡市民、厚木市立中央各館からの事例発表と続き、栗原均日本図書館協会理事長の情勢報告で終了。

第2日—前日行われた事例発表等をふまえ、研究・協議が行われ、外国語資料の所蔵館・未所蔵館双方から活発な意見交換がなされ、盛会のうちに全日程を終えた。

これからの図書館業務を考えていく上でも、学ぶことが多く、また大いに触発された研究集会であった。

(福井県立図書館若狭分館 山本 和之)

◇参考事務分科会

本年度の全国参考事務研究集会は「参考事務の新たな飛躍を求めて」を研究テーマに、10月6日・7日の両日、秋田市で開催された。参加者は229名で、本県からは2名が参加した。

研究内容は「町立図書館におけるレファレンスについて—県立図書館との連携を考える—」「浦安市立中央図書館の読書案内について」「AV資料とレファレンス」「コンピュータ化とレファレンス担当職員に求められるもの」「図書館協力におけるレファレンスの現状と課題」等5件の事例発表会及び研究討議であった。各館共、参考業務の高度なサービス性を認識しつつも、そのトレーニングの場に苦慮しておられたのが印象に残る。なお、基調講演は「電子ライブラリーの展望とレファレンス・サービス」(情報処理振興事業協会新事業推進室調査役田屋裕之氏)であった。

(福井市立図書館 森瀬 一)

◇児童図書館分科会

11月17日・18日の両日、「図書館サービスをすべての子どもたちのために」をテーマに、埼玉県浦和市において研究集会が開催された。全国から518名の参加者があり、本県からも11名が参加した。

4分科会にわかれての研究討議では、パネルディスカッションや事例発表をもとに活発な意見交換がなされた。

そのうち第1分科会では、「子どもに本を手渡すとは？—あなたは資料厳選派？それとも子どもの希望尊重派？」をテーマにパネルディスカッションが展開されたが、パネラーが3人とも資料厳選派にやや傾いていたため、討論の歯切れがいまひとつ悪かった。

また、鳴門大学教授佐々木宏子氏による基調講演では、「絵本と子どものお話」をテーマに、ファンタジー絵本について興味深いお話をうかがうことができた。

(清水町立図書館 松原 和子)

図書館利用の拡大をめざして

～ 大飯町立図書館 ～

町民待望の新しい図書館が総合運動公園の一角に建設され、去る1月18日に開館いたしました。旧図書館は、総合町民福祉センター内に併設されて多数の人々に利用されてきましたが、図書館の収容能力が低いことがあげられていました。

そこで、町では青戸入江の埋立てによる土地造成に伴い、総合運動公園の諸施設、宅地の造成を進める中で新図書館も建設の運びとなり、平成4年11月に着工し、平成6年郷土史料館とともに完成いたしました。青戸入江に望む風光明媚で、周囲には、すばらしい体育館、野球場等のスポーツ施設が建設されています。また、特に申しあげられることは、郷土史料館を併設した複合施設でもあります。一方、有難いことに、国道27号線が関係諸機関の尽力により従来はカーブが多く見通しがよくありませんでしたが、路線の変更により危険度も低くなり当館の所在位置もわかりやすく今後は利用の拡大につながっていくものと期待しています。

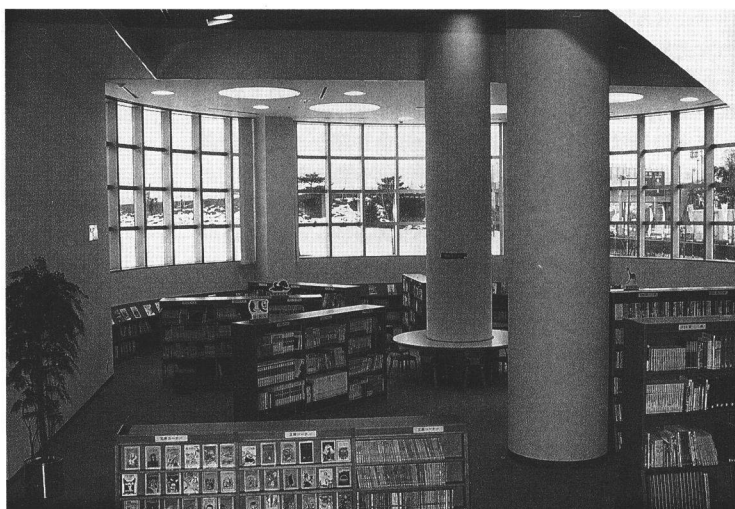
今、開館して3週間足らずですが、人口7,000人の町で従前の約10倍を上まわる利用者があり順調なスタートでした。現在地は、町の中心街よりやや離れていますが、今後は、新しい住宅地の発展を契機に、生涯学習や、地域交流の場として大いに利用していただきたいと考えています。また、県立図書館（若狭分館）や近隣の図書館との連携を密にしながら利用者のニーズにも応えていきたいと思っています。

〈大飯町立図書館の概要〉

- ・建設地／大飯町共和第2号1番地
- ・敷地面積／18,145.6㎡
- ・延床面積／889.96㎡
- ・開館／平成7年1月18日

町制施行40周年記念式典日（運動公園竣工記念）の、去る1月18日がオープンであり、1、2階吹抜けのメモリアルホール、1階の受付カウンター、一般閲覧コーナー（2万冊収容の開架、閲覧席18席）、ラウンジコーナー（新聞7種・雑誌56種・ソファ7席・畳室6畳）を設け寛いだ雰囲気で見覧してもらおうことにしています。

AVコーナーでは、CDブース2台、LDブース2台、VTRブース4台を備えており、中学生、高校生に人気があり利用度が高くなっています。親子・児童コーナー



（閲覧席20席）では、紙芝居や読書を通して親子のふれあいがみられ賑わいを見せています。2階の研修室（椅子席50人収容可）は、グループの読書会を順次実施していく予定です。また、町内婦人会研修の場として大飯町郷土歴史学習を進めるために併設の郷土史料館を活用しながら利用の増加をはかるとともに、多角的に運営をしていきたいと考えています。

次に、コンピューターの導入により、図書の貸出し、返却処理、資料や利用者検索、利用者登録、予約管理、日報計算等の図書館事務の効率化をはかることができるようになりました。このことは、来館者の待ち時間の短縮にもつながり喜んでます。

ここで、図書館運営として考えなければならないことは、何といたっても多くの方々に来館してもらうようにしなければなりません。それには、現在、人々の余暇時間の増加にあたり図書館の果す役割は大きいものがあることと信じています。従って、そのニーズに応えるためには開館時間の延長（現在は午前9時より午後6時まで）に近い将来の課題となることと思っています。

最後になりましたが、来館者の方々から「有難う」「ご苦労さま」の言葉を館員が耳にし、これからも、もっとがんばらなければと心に誓っているところです。住民の皆さんに「図書館に来て本当によかった」と満足していただけるように職員一致協力して、尚一層の努力をいたしたいと思っています。

（大飯町立図書館 永井 庄之衛）

新 設 図 書 館 紹 介

いろんな設備が整った、とっても明るい図書館ができました！

～ 上志比村立図書館 ～

上志比村に、図書館とホールがいっしょになった多目的会館、その名も「上志比文化会館・サンサンホール」が完成しました。時は、平成6年10月13日(木)でした。

この、サンサンホールという名称は、会館が旭ヶ丘台地という高台にあり、太陽が燦々と輝くというイメージで、太陽のSunと燦々の燦をかけて高浜町の武野さんが、つけて下さいました。

サンサンホールのまわりには、小学校、村民グラウンドや村民体育館などの教育施設と、老人福祉センター、児童館、デイサービスセンター、保育園などの福祉施設があり、村の文化教育・福祉ゾーンとなっています。

新しくなった図書館は、サンサンホールの2階にあります。広さは、405㎡です。一般の閲覧室には、机3つに椅子が12席。雑誌のところには、椅子が9席。少し離れた児童の閲覧するところには、机1つに椅子が6席。その奥には、見晴らしのよい広いスペースに、カーペットが敷いてあり、お母さんが、子供さんに絵本等を読んであげたりできるようになっています。また、大きな正方形のクッションが4つあって、その上にすわったり、寝ころがりして本が読めるようになっています。

貸出、返却も時代の流れにより、コンピューター化されました。小学校の子なんかは、カードを忘れても、本が借りられる事に驚いたり、興味を持ったりしています。

AVコーナーもあり、お笑い関係のビデオや、アニメ、洋画（といっても、『ホームアローン』だけ）は、毎日のように利用されています。

蔵書数は、今は1万4千冊位ですが、行く行くは2万冊迄増やすつもりです。

開館時間は、午前9時～午後5時迄。但し、土・日・祝日は午後6時迄となっています。

休館日は、毎週月曜日・毎月第3日曜日です。

本については、本屋さんから購入して、データは、自分達で手入力します。そして、背ラベルを貼って、バーコードもコンピューターで打ち出しして貼り、フィルムを貼って出来上りです。最初は、大変かかって思いましたが、慣れてくると、それ程でもなかったです。

上志比村の図書館は、本当に自分で言うのもなんですが、明るいです。東側が全部窓になっているからかも知れませんが、と

にかく明るくて見晴らしがよくて最高です。冬はちょっと淋しいですが、春はとってもいいです。図書館に来られる時は、是非、春にお越し下さい。心よりお待ちしております。

最後に、この会館の説明をさせていただきます。

ホールは、472人収容できます。講演会、コンサート等いろいろ利用されています。椅子が自動で片付けられるので、披露宴や、パーティにも利用されました。音響や照明の設備もバッチリです。

ロビーは、ゆったりしていて、いつでも気軽にくつろいで頂けるようになっています。

和室は、茶道ができるように水屋と炉が切られています。広さは15畳と12畳です。

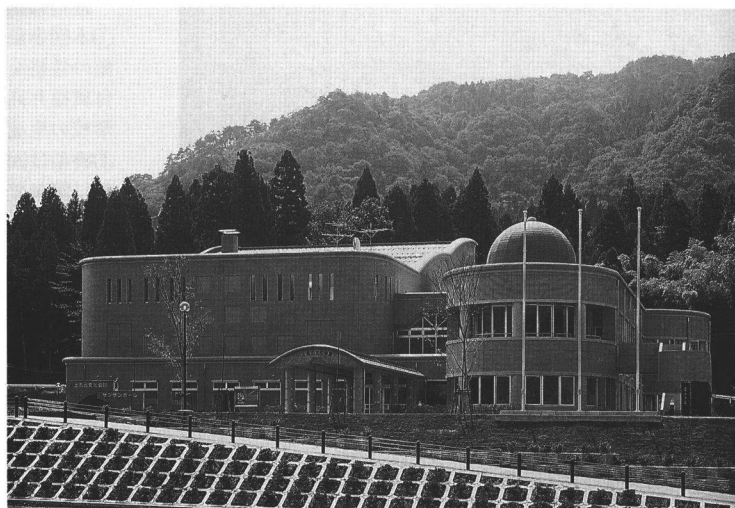
会議室は、30人～100人迄使用できます。ビデオプロジェクターもあり、ちょっとした映画館の雰囲気味わえます。

もう1つの会議室は、30人迄使用できます。そして、結婚式の設備（神殿）がありますので、結婚式もできます。

以上が図書館以外の設備の説明です。

これから、いろんな催し物が開催されます。その時にも、図書館が利用できるようにしていきたいです。そして、より多くの方々に、目標は、村民の皆さん全員が、カードを作って頂けるよう頑張っていくつもりです。

(上志比村立図書館 酒井 春美)



新設図書館紹介

金井学園図書館の改造について

～ 金井学園図書館 ～

この度、我が金井学園図書館は殆ど造り直しと言ってもよいほどの大改造を行ったので、そのことについて報告させて頂くことにする。

● 学生ロビーの図書館化

改造の手始めは、平成6年2月中旬から3月末までの春休み中になされた学生ロビーの図書館化であった。学生ロビーは大学2号館1階の大半を占めているが、その1階の東側半分(約90坪)が図書館の機能をもつことになった。すなわち、その部分の中央柱の間に大型の高級木製書架が置かれ、北西の一隅に雑誌コーナーが設置され、入口にはブックディテクションシステムと共に受付カウンターが設けられた。書架には一般教養書約3,000冊が、また、雑誌コーナーには一般誌から学術誌までの和雑誌約600誌が配架された。図書館の一部となったこのコーナーは、煙草を吸うこともコーヒーを飲むことも許されており、自分の書齋のように気楽に、くつろいで利用して欲しいということで、“マイ・スタディ(私の書齋)”と名づけられた。

● 図書館の大改造

マイ・スタディが設置されても図書館の主要部は依然として同じ2号館の2階及び3階部分である。これらの部分は造られてから約18年が経過しており、あちこちで

老朽化が目立ち始めていた。そこで、同年の夏休みを利用して、これら主要部分の大改造を行うことになった。

しかし、その前に、古くなって利用価値が少なくなっている図書・雑誌をこの際思い切って廃棄し、整理しようということになった。そこで、学内の多くの先生方に協力をお願いし、それぞれの専門分野について廃棄すべき図書・雑誌を選んで頂いた。こうして、図書2万冊余り、未製本雑誌3万冊余りが廃棄された。

改造工事は、図書や家具等の一切が4階以上の階に運び上げられた後、7月下旬に開始された。それは、天井や床を含め全てを一旦取り壊し、新たに造作し直すというものであった。また、1階から3階までの各階を結ぶものとして外側に新たに大理石の瀟洒(しょうしゃ)な螺旋階段を設置する工事も並行して行われた。

工事は、9月末までかかった螺旋階段の工事を除いて、9月初めに完了した。早速、書架が設置され、図書・雑誌が配架され、更に、高級木製で統一されたカウンター机、閲覧机等の家具が設置された。これらは、白い天井に輝くシャンデリヤ、木製の壁、床のピンク系の色のじゅうたんと相まって、それぞれの階の南側半分を占める閲覧室を明るく見栄えのよいものになっている。更に、UNIX図書館システムを構成する十数台の電算機も事務所、受付カウンター、閲覧室等に設置された。

こうして、新学園図書館は以前とは見違えるような姿になって10月4日に開館した。

● 新図書館の特色

最後に、新図書館の特色を3つ挙げることにする。

- ①本図書館は福井工業大学の校舎内にあって、大学図書館の性格を強くもつとはいえ、金井学園を構成している付属福井高校、付属福井中学校、福井産業デザイン専修学校の生徒、職員にも開かれている学園図書館である。
- ②書架は固定木製書架と電動集密書架とから成り、全面的に開架である。
- ③この度、図書館の電算機・システムが更新され、最新の富士通UNIX図書館システムIRISが導入されたが、これは事務処理の高効率化を可能にすると共に、本図書館が今後学園の情報センターとしての役割を担って行く上で強力な武器となるものである。

なお、本学は平成6年11月1日付けをもって福井地域学術情報ネットワーク協議会への入会を認めて頂いたので、我が図書館も一つの情報基地として間もなく全国の、更には世界の情報機関へ向かって大きく開かれようとしている。

(福井工業大学事務局図書課長 銚之原 善章)



談話室

信長のこと

歴史が好きで、専門書から通俗な歴史小説にいたるまで読み散らかして来ました。また、かたわらクラシック音楽もはなはだ愛好していますので、この二つが絡み合った話を書こうと思います。

織田信長という福井と因縁浅からぬ戦国の武将については、これまで数多くの本が書かれています。その中の一つに辻邦生の「安土往還記」という小説があります。この小説の中に、信長が安土のセミナリオで生徒達が合奏する西洋音楽に耳を傾ける場面が出てきます。私の脳裡にある英雄信長のイメージにこのシーンはぴったりで、ぜひ古文書の中にこのシーンを裏付ける記述を見たいと思いました。「信長公記」などは、このことがきっかけで目を通すことができた資料です。高貴で、天才の孤独の中に生きていたと思われる信長が、西洋音楽に心を引かれていたという想像は、クラシック・ファンの私にはとても魅力的に思われました。生憎、目にした資料にはこの想像を裏付ける記述は見当りませんでした。信長はバッハへとつながる多声音楽が好きであったに違いないと今も思っています。

(福井市立図書館 鈴間 智弘)

公共図書館から大学図書館へ

私は、平成6年4月、異動により、県立図書館から県立大学情報センターに勤務となりました。公共図書館から大学図書館へ移ったということで、業務内容も大きく異なるため、当初はかなり面食らって、戸惑いがありました。

しかし、ある時、県立図書館で見覚えのある利用者の方がカウンターにこられました。仕事上、専門的知識が必要となり、経営学の専門書を探しにこられたとのこと。このような方がほかにも何人かいらっしゃいました。情報センターでは、一般県民の方にも開放し、図書の貸出も行っています。また、教員や学生のリクエストする図書を数回、県立図書館から借受しました。こちらが大学か公共かこだわっている一方で、利用者の方は、利用の目的により、使いわけをしているようです。

その館種の任務をそれぞれが追求することにより、お互いをより利用価値の高いものにしていくことを実感しています。また、機械化がどれほど進んでも、最良の情報伝達ツールは、人間であり、人間同志のネットワークの大切さを強く感じています。

(県立大学情報センター 小林 香織)

私の16年

図書館に勤め始めてもう16年になる。本が好きで人と話すことが苦手だった私は、高校の頃から図書館に勤めたいと思い始めた。出来れば大学の図書館にとの願いは儂く消え、市立図書館の司書となり今に至っている。

思い起こせば、最初は資料の整理が主であり、一日に何枚原簿を書くかで仕事が評価されていた。利用者への資料提供も、ほとんどが自館の資料のみで対応していた。

昭和60年頃から児童サービスに携わり、平成からは学校でのブックトークを始めた。人前で話すことが嫌いな私が、一時間の授業を持てるのも、本の魅力に助けられ子供達の笑顔に支えられてのことだ。県内の図書館員で勉強会も始めて5年が過ぎ、仕事の面でも年齢的にも、折り返し点にきている。

折しも阪神大震災、図書館は何が出来るのかと疑問を持っていたが、勉強会にて、どのような状況にあっても自分がどう行動すべきかを判断する力を養ってくれるのが本であるという意見に励まされた。これからも、利用者と本に対する謙虚さと、仕事に対する誇りは失わずにゴールに向けて歩き続けたいものだ。

(武生市立図書館 三田村 悦子)

おいしい味をだしたいな

「入った時にねえ、暖かなお汁をいただいた時のように、何ともほっとする図書館がありますよ。館の大小にかかわらずね。」どなたに聞いたのかは忘れてしまいましたが、忘れられない言葉となった。

図書館を利用される方々にとって使いやすく、居心地の良い場所になるように、との思いで開館の準備をすすめてきた。言葉一つの使い方や、本棚の高さの10cmが気になったり、事や物を決める時には、「いつまで悩んでも前には進まないぞ。」との叱咤激励を何度もうけた。十分に注意を払ったつもりでも、見落とし点はいくつもある。

年が明け、建物も出来上がり、数日後には、発注してあった本も届く。心の中で、「ようやく」と「もう早」が一緒になるが、やはり5月の開館は楽しみだ。

「建物」という手に持った時に何とも言えずしっくりなじむお碗に、「資料」という吟味された具を入れて、少量でも味を引き立たせる木の芽のような「職員」を添え、「利用者」という熱いお汁をたっぷり注いで、おいしい図書館の出来上がり♪とまあ、食いしんぼうの私は、こんな図書館を目指したいと思っている。

(春江町立図書館開設室 浦谷 昌野)

福井地区大学図書館協議会研修会

7月の定例会議において承認された事業計画に基づき、今年度は、福井医科大学が幹事校となっており、8月24日に平成6年度福井地区大学図書館協議会夏季研修会を行った。

研修会は、「インターネットの現状と将来について」の講演と本学に隣接する(財)福井県産業情報センターの見学であり、福井県の7大学(福井工業高等専門学校を含む)から29名が参加した。

まず、本学医学部附属病院情報センター助手の山下芳範氏より、電気通信分野で電話、ファクシミリに次ぐ第三のコミュニケーション手段として台頭してきた、世界最大のコンピューターネットワーク『インターネット』の現状と将来について、約1時間30分にわたり講演があった。

その後、(財)福井県産業情報センターへ移動し、情報課長の池田敏雄氏より、同センターが福井県産業の高度情報化支援のための拠点施設として、平成6年4月にオープンし、情報化支援、産業サービス、情報産業育成の3つの機能を備えた中核機関として、各種の事業を展開しているとの説明の後、施設を約30分見学し、研修会を終えた。

(福井医科大学附属図書館 松田 登志英)

福井県学校図書館協議会この1年

- 5月24日(火) 第1回県学校図書館協議会役員会
(於：足羽高校)
- 5月末日 「学校図書館図書整備新5カ年計画」に対する署名・ハガキ陳情の実施。(署名約4,000人分提出)
- 6月1日(水) 第2回県学校図書館協議会役員会
第1回県学校図書館協議会理事会
(於：足羽高校)(予算・決算の承認、年間行事計画の審議等)
- 6月9日(木) 中教研地区別学校図書館研究会
6月29日(水) 小教研地区別学校図書館研究会
- 4月～7月 第20回県小中学生読書感想文コンクール締切日(福井新聞社主催、県SLA後援)6月18日(土)
- 7月13日(水) 第3回県学校図書館協議会役員会
(於：足羽高校)
- 7月～10月 平成6年度文庫による読書感想文コンクール(中・高)に参加
- 8月2日(火) 第29回全国学校図書館研究大会秋田大会
～4日(木) (16名参加)於 秋田市
- 8月18日(木) 第9回近畿学校図書館夏季セミナー(18名参加)於 滋賀県草津市
- 9月16日(金) 第34回近畿学校図書館研究大会(福井大会)運営準備委員会
第32回福井県学校図書館研究大会(敦賀大会)準備打ち合わせ会
第4回県学校図書館協議会役員会
(於：足羽高校)
- 10月27日(木) 近畿学校図書館連絡協議会(7府県会長・事務局長・県内代表理事参加)(第34回近畿学校図書館研究大会/福井大会の原案審議等)

- 10月29日(土) 第40回青少年読書感想文全国コンクール県予選を実施
- 11月4日(金) 平成6年度高教研図書館部会研究大会
(於：大野高校)
- 11月～1月 第12回読書感想文コンクール実施
- 1月27日(金) 第5回県学校図書館協議会役員会
(於：足羽高校)
- 2月8日(水) 第6回県学校図書館協議会役員会
第2回県学校図書館協議会理事会
(於：足羽高校)
- 2月20日(月) 会誌「福井県の学校図書館」第40号発行
(福井県学校図書館協議会事務局長 田塾 正)

平成6年度東海北陸地区公共図書館研究協議会・研究集会

11月10日・11日の両日、名古屋市女性会館において「求められる資料をよりよく提供するために」-ネットワークのあり方を考える-をメインテーマにして開催された。参加者は約120名、本県からは11名が参加した。

1日目は、文部省生涯学習局図書館担当の小林氏の「公共図書館に関する国の施策について」の行政説明、引き続き国立国会図書館図書館協力部の生原至剛氏の「図書館協力のあり方をめぐって」と題した基調講演が行われ、事例発表へと進行された。

研究内容は、富山県・入善町立図書館の建部春美氏が「とやま学遊ネットの利用の実際と課題」、岐阜県・大垣市立図書館の北村彰夫氏が「大垣市立図書館の図書館情報提供システムについて」、愛知県図書館の新海弘之氏が「愛知県図書館の協力貸出とオンラインネットワークの現状について」の事例発表であった。

2日目は、ネットワーク分科会と管理運営分科会に分かれ前日の事例発表の質疑応答および討議が行われた。日頃の疑問点など、質問が出され活発に討議された。次の全体会では分科会報告があった。まとめとして、情報交換の場を有効に利用すること、人と人とのつながりがネットワークの原点であることを確認して2日間の研究集会の幕を閉じた。

(鯖江市図書館 葛野 順子)

■平成7年度研究集会および研修会(予定)

区 分	開催地	期 日
全 国 大 会	新潟市	平成7年10月25日～27日
整 理 部 門	松江市	〃 9月20・21日
奉 仕 部 門	草津市	〃 10月5・6日
移 動 図 書 館 協 力 事 業	阿見町 (三重県)	〃 10月12・13日
東 海 北 陸 地 区 公 共 図 書 館 研 究 集 会	富山市	〃 9月8・9日
日 本 図 書 館 協 会 地 方 講 習 会	愛知県	期 日 未 定
東 海 北 陸 地 区 視 聴 覚 ライブラリー研究協議会	春日井市	〃